

学校だより



市川市立平田小学校

いなほ  
稲穂

学校教育目標  
夢をもち、たくましく生きる  
子どもの育成

No.10

R6年9月2日

校長 蜂須賀 久幸



～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する 共に未来を創る～



## 昨年度より授業時数が減ったが、十分足りているの？

1年生から6年生まで、令和5年度より1コマずつ授業時数を削減しています。これにより、授業時数が足りなくなっているのではないかと不安な声が寄せられましたので回答します。

授業時数については、次のとおり大きく3つに分けられます。

### (1) 標準授業時数

➔ 学校教育法施行規則に定められた、教科などで使用する時数です。

### (2) 学校行事などの時数

➔ 運動会や音楽会、遠足、修学旅行、宿泊学習などの行事で使用する時数で、「各学校で定めるもの」とされています。



### (3) 余剰時数

➔ 年間200日前後の授業日数で生じる総時数から、(1)標準授業時数と(2)学校行事などの時数を引いた時数です。感染症などによる学級・学年閉鎖や災害等による臨時休業を見越して多めに時数を確保したり、教科の補充学習の時間などに使用したりすることができます。低・高4学年の例を下に示します。

➔ 1年生(850h) : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R5</span> 130h → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R6</span> 95h	2年生(910h) : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R5</span> 116h → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R6</span> 72h
3年生(980h) : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R5</span> 109h → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R6</span> 61h	4年生(1015h) : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R5</span> 90h → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R6</span> 55h
5年生(1015h) : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R5</span> 83h → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R6</span> 52h	6年生(1015h) : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R5</span> 67h → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R6</span> 41h

これに見られるように、昨年度までの余剰時数は、1年生で年間130時間、6年生で67時間ありました。非常変災や学級閉鎖のほか、学級裁量の時間としても十分余裕がある時間です。しかしながら、授業時数過多は逆に教員の放課後の時間を奪うことになり、子供と向き合う時間の減少となるとともに、延いては在校時間が極めて長くなる「長時間労働」につながっています。

文科省でも、学習指導要領に基づき国が定めている標準の時間数より大幅に超過している学校には、今年度からの見直しを求める方針を打ち出しています。これにより、教員の業務負担を軽減し、長時間労働を解消していくねらいがあるわけです。実際に放課後に生み出される時間を使って、授業の準備や児童にかかわる課題の協議などがこれまで以上に行われています。

今年度減じた本校の余剰時数の範囲で、急遽時程等を変更せざるを得ない場合等に十分対応できます。低学年においては十分すぎる時数確保となっておりますが、学習理解のために余裕ある時間配分は、児童の安心とゆとりにつながると考えます。さあ、2学期の始まりです。



# いまさら聞けない!?!素朴な疑問にお答えします

## Q1 「たんぼぼ学級」ってなあに？

\* 知的障がい児を対象とした学級で、令和6年度は5学級（現在40名）あります。1クラス8名以下で構成され、学区もしくは隣接学区への通学を基本とし、特別の教育課程を編成します。すべての児童に対して、「個別の教育支援計画（市川スマイルプラン）」と「個別の指導計画」を保護者と確認しながら作成し、児童の社会性と好ましい人間関係を育てる視点から、一人一人の実態を考慮しながら、通常学級との交流や共同学習を行います。

## Q2 「4くみ」ってなあに？

\* 自閉症・情緒障がいの児童を対象とし、1クラス8名以下の構成です。今年度は11名在籍し、「ダイヤ」と「パール」の2学級編成です。児童の情緒・学習面のニーズに応じて、自立活動を取り入れた特別の教育課程を編成します。教科書は、通常学級と同じものが給与されます。個別支援計画や交流等は、たんぼぼ学級とほぼ同じであると考えてください。

## Q3 「ゆとろぎ」「スペシャルサポートルーム」ってなあに？

\* 「ゆとろぎ」は、「ゆとり」と「くつろぎ」から成る造語です。原則、月・水・金曜日の業間や昼休みに開放して、昔遊びをしたり折り紙をしたり絵を描いたりするなど、思い思いの活動をしながら、リラックス・リフレッシュして次の活動に向かう活力を生み出すことを目的にしています。また、「スペシャルサポートルーム」の機能も兼ねています。こちらについては、学校だより No.2（HPに掲載）をご覧ください。

## Q4 図書室ってどんな場所なの？

\* 本校は、2階マルチルームの向かいと隣に図書室を2部屋もっています。学校司書が週2日（昨年度までは週3日）勤務をして、貸し出しや読み聞かせ、イベント等の計画を行っています。各学級が図書室を利用できる時間を時間割の中に位置づけ、児童の読書活動を支援しています。蔵書は10500冊余りあり、長期休業前などにボランティアの方の手を借りて蔵書点検を行います。また、傷んでしまったり読むに堪えない本は廃棄し、新たな購入希望をとったり選書したりして、決められた予算の中で新しい本と入れ替えています。

## 写真を飾ろう！

子供の自己肯定感を高めるために、子供の寝る部屋にある物を飾るとよいとされます。入眠時は、潜在意識に刷り込まれる情報が入っていきやすい状態なのだそうです。そういう理由で寝室が最適だといえます。

アメリカのある研究で、3週間写真を飾った家庭と飾らなかった家庭で比較実験をしたところ、子供の自己肯定感に顕著な差があったともいわれます。そのある物とは、次の2つの写真です。



- (1) 家族みんなが写った写真 → 自分が家族の一員であることやみんなから大事にされているという気持ちが大きく育つ。
- (2) 子供が輝いている写真 → 好きなことをしていたり頑張っていたりする時の輝く表情や動作を写した写真を見ると、成功イメージを持ちながら寝ることになり、「自分っていいなあ」と思う気持ちが膨らむ。

さて、7月ある日の新聞掲載漫画『コボちゃん』では、お父さんが会社の机に家族写真を置く理由を、「嫌なことがあっても、見ると頑張れるんだ」と答えています。さすがに学校の机には無理でしょうが、子供の寝る部屋に家族の笑顔があふれる写真があると確かによいかも…。